

科目名	地域福祉論			ナンバリング	SOC141	授業形態	講義
対象学年	2	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	鎌田真理子	担当教員	○鎌田真理子				

授業の概要	地域福祉論では自助・共助・公助による取り組みについての理論と実際のコミュニティ・ソーシャルワークの在り方について更に専門化した内容を理解し、震災をはじめとする様々な生活課題の解決のために住民自身が取り組む自助、困難な場合は地域の人々による共助、公的な機関の公助への理解を深め、地域課題への取り組みを習得することが目的である。						
到達目標	1.地域福祉の理論について理解し概説できる。 2.地域福祉の実践について理解し概説できる。 3.地域福祉の専門機関・専門職。関係機関・社会資源について理解し、連携の在り方を理解し、概説できる。 4.地域診断、住民ニーズのアセスメントを理解し、自助・共助・公助について理解し、概説できる。 5.地域包括ケアシステムをはじめとする国内の福祉の喫緊課題に取り組む新システムについて理解し概説できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	1.国内の構造的な地域課題がどのような経緯で生じてきたのかを理解するために、ニュースや地域社会の状況などに興味関心を持つ。 2.わからない専門用語は調べておき、国内の社会保障制度や社会福祉法制度についても理解を深めておくなど、日常的な学習が求められる。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身に付け、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身に付け、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1.基本的な専門用語のキーワードを理解し説明できる。 2.国内外の社会保障制度、社会福祉法制度の一般常識的な概要を説明できる。 3.地域課題の発生要因と現状、解決に向けた社会資源を理解している。 4.地域福祉の意味、必要な環境、システム、ネットワーク、マンパワーを概説できる。 5.具体的な地域課題を地域アセスメントを通じ支援の在り方を企画し実践を概説できる。	1.専門職者間で使用される専門用語のキーワードを理解し説明できる。 2.国内外の社会保障制度、社会福祉法制度の現状と課題を説明できる。 3.地域課題の発生要因と現状、解決に向けた社会資源の活用を理解している。 4.地域福祉の意味、必要な環境、システム、ネットワーク、マンパワーを概説し、具体的な先行モデル事例を提示できる。 5.具体的な地域課題事例を地域アセスメントを通じ、企画・実践・リアセスメントを通じエビデンスに基づき概説できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○					40%
小テスト・授業内レポート	○	○					20%
宿題・授業外レポート		○					20%
授業態度・授業への参加			○	○			20%
出席			○	○			一定回数以上で減点となる。

課題、評価のフィードバック	1.課題についての振り返りと、個別のコメントを教員が行う。 2.福祉ニーズ、地域診断、先行モデルの質的・量的調査の社会福祉ニーズ調査についての理解の確認を質疑応答で確認していく。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス、地域福祉の専門職と人材①	地域福祉論Ⅰの学びの振り返りを行い、地域福祉を担う専門・非専門職および地域住民の役割等について概説する。	
	第2回	地域福祉の専門職と人材②	地域福祉論Ⅰの学びの振り返りを行い、地域福祉を担う専門・非専門職および地域住民の役割等について概説する。	
	第3回	ネットワーキングの意味と方法①	地域福祉におけるネットワークの意味について概説する。	
	第4回	ネットワーキングの意味と方法②	地域福祉におけるネットワークの構築手法について概説する。	
	第5回	地域福祉における社会資源の意味と活用・調整・開発①	社会資源とは何かについて概説する。	
	第6回	地域福祉における社会資源の意味と活用・調整・開発②	社会資源の活用と調整の仕方、開発企画・手順・手法について概説する。	
	第7回	地域福祉における福祉ニーズの把握方法と実際①	地域福祉の各種の福祉ニーズとは何かを理解できるよう概説する。	
	第8回	地域福祉における福祉ニーズの把握方法と実際②	各種福祉ニーズの把握方法として各種既存データおよびアセスメント等から分析し理解する手法を概説する。	
	第9回	地域トータルケアシステムの構築方法と実際①	地域福祉における対象に対するトータルケアシステムとは何かを概説する。	
	第10回	地域トータルケアシステムの構築方法と実際②	地域トータルケアシステムの各種事例紹介と構築方法を概説する。	
	第11回	地域福祉における福祉サービスの評価方法と実際①	福祉サービスとは何か、その評価とはどのようなことか概説する。	
	第12回	地域福祉における福祉サービスの評価方法と実際②	福祉サービスの評価方法の具体的な手法と内容、エビデンスに基づいたサービスの実態と質向上について概説する。	
	第13回	ボランティア・市民活動の推進と福祉教育	ボランティア・市民活動とは何か、その推進と福祉教育について概説する。	
	第14回	地域福祉計画策定プロセスと実際①	地域福祉計画の目的・意義・内容について概説する。	
	第15回	地域福祉計画策定プロセスと実際②	その重要性和計画策定プロセスについて概説する。	
	試験	試験を実施する。小レポート等の課題も実施する。		
授業の進め方		講義の実施と質疑応答で進め、全講義中に2-3回の小レポート課題を課し、理解を深化させていく。		
授業外学習の指示		配布資料や講義での話題を更に自主学習として内容を深化させ、地域福祉分野の興味関心を高めていく努力を怠らないよう希望する。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	坪井真・木下聖編 『第2版 地域福祉の理論と方法』(株)みらい、2014年(定価:2600円+税)ISBN 978-4-86015-335-9
参考書	適時、紹介をする
参考URLなど	以下の各ホームページ参考：厚生労働省、各市区町村、各市区町村社会福祉協議会、全社協、各地区のボランティアセンター 等
その他	